



早いもので、3月で我が家のアクアは1歳の誕生日を迎えます。我が家に生後2ヶ月でやってきた翌日の体重は5.8kgでした。生後4ヶ月の頃はひょろひょろと足が長くなり、走っていると転んでしまうことがあり、自分の足がもつれて転ぶなんて、そんな漫画みたいなことがあるの?!と思いつながら様子を見ていてハラハラしたものです。その心配も束の間、成長と共に筋肉もついて、今では馬のように庭をギャロップするようになりました。朝起きるたびにまた足が伸びた?と思う日々が続く、気がつけば、体重20kgの立派な若犬に成長しています。

さて、そんなアクアと日々お散歩に出かけたり、犬同伴のイベントに参加したり、旅行と一緒に出かけたりすると、犬好きな方々によく声をかけられます。何の犬種ですか?と聞かれることが多く、保護団体から譲り受けたことや、たくさんの犬種が混じっているらしいことを伝えると、多くの方は、“He is such a handsome dog”, “He is so well behaved”, “He looks happy” などと教えてください。ハンサム、お行儀が良い、楽しそうにしている、どれも褒め言葉として受け止め、“Thank you!”、とお礼を言うのですが、引っかかるのは、“HE”(彼)と言われること。そう、アクアは女子なのですが、あまりに凛々しい顔立ちをしているので、男子に見られてしまうのです!話しかけてくださった方に“SHE is a good dog”のように、「彼女は」良い子なの、と返事をすると、あら、女の子だったのね、と気づいて話が続く場合もあるのですが、私のささやかな抵抗が無駄に終わり、いつまでも“HE”扱いのままのこともあります。あまりに男子と勘違いされるので、アクアという名前が男性の名前なのだろうかと思って、アメリカ人の友達に聞いてみたところ、アクアという名前自体が珍しいので、特に男性の名前と

いう印象はないという返事でした。

“HE”であっても“SHE”であっても、本犬は全く気にしないのですが、飼い主としては、毎回会話の腰を折ってまで訂正することなく会話を楽しみたいので、アクアの女子カアッブを目指すことにしました。イベントに出かける際にはリボンのついたバンダナを巻いてみたり、優しい色の首輪やリーシュ(散歩用の紐)を使ってみたりしたところ、今の所、作戦のおかげか、勝率6割ぐらいで以前よりは“SHE”扱いしてくれる方が増えたように思います。“Hi buddy”、と男の子への呼びかけのように声をかけられることが多い中で、“Hi sweetie”、と声をかけてもらったときには、心の中でガッツポーズをし、にっこりと相手の方に笑顔を返しています。

耳や首周りの毛がふわふわと伸びてもう少し優しい印象になれば、周りの方々の目にも女子に映るでしょうか。大和撫子というよりはテキサスのカウガールへの道を歩んでいるアクアです。



▲元気いっぱいのサッカー少年のような風貌ですが...



▲お花と一緒に女子カアッブ?

ヒューストン補習校

ANA航空教室



2月10日、ヒューストン日本語補習校5年生を対象としたANA航空教室が開催されました。子ども達にとっては、待ちに待った学校行事です。

開催時間となった午後1時10分、講師として来ていただいた機長の山中様、西山様、客室乗務員チーフパーサーの井上様、航空所整備マネージャーの岡宮様、空港スーパーバイザーの森池様、フライトオペレーションセンターの岡谷様、ヒューストン支店長杉本様と一緒に制服を着た子ども達も入場です。憧れのパイロット、CA、整備士の制服で登場した子ども達の嬉しそうな、そしてちょっぴり恥ずかしそうな表情がとても印象的でした。



制服を着た子ども達が席に着いた後、岡林校長の挨拶と講師の方々、また本日この航空教室開催のために来てくださったANAスタッフの皆様のご紹介がありました。つづいて華麗な井上様の機内アナウンスが披露され、まるで飛び立つ飛行機の中にあるような雰囲気を目を丸くする子ども達、そして参観された保護者の方からは「おおっ」という感嘆の声が上がりました。

整備マネージャーの岡宮様からは「整備士の仕事」と「飛行機の飛ぶ仕組み」についてのお話がありました。機体を飛ばす仕組みは空気の流れを利用するというのですが、子ども達に分かり易いように「水道水を流すスプーンを近づけるとスプーンは水に引き寄せられる、これと似たような働きを使う」という説明がありました。私も含め、帰宅後実際に実験してみた子ども達も多かったのではないのでしょうか。

機長の山中様と西山様からは、「パイロットになるきっかけ」、「パイロットになるまでの過程」、「パイロットの仕事」についてのお話がありました。パイロットになるまでには長い訓練と5回の試験があり、試験に落ちてしまうと

そこで終了という、厳しい訓練と試験に合格されて機長になられたお二方を、子ども達はさらに尊敬と憧れの眼差しで見っていました。

また、経路となる上空の状態や空港の状況等多くの確認をされ「安全で安心」、かつ、地上走行では片方のエンジンだけを使う等、「環境に配慮」した運航を心掛けているとのお話がありました。

客室乗務員チーフパーサーの井上様からは一連の客室業務の流れと訓練のお話がありました。機内で目にする仕事だけでなく、安全で安心、快適な空の旅を提供するため、お客様を迎え入れるまでにたくさんの準備や打ち合わせ、確認をされていることを改めて知ることができました。

空港スーパーバイザーの森池様からは、機内食の手配や私たちの荷物などのように目的地まで運ばれるのか、また、お客様の搭乗までの確認や搭乗されたお客様の状況を客室乗務員の方々と共有し、必要によっては到着後車椅子の手配等もされているとのことでした。

最後に岡宮様からは、「飛行機は今後どのように進化するのか」という子ども達の事前質問にも回答していただきました。

今回の航空教室を通して、子ども達は「安全で安心、快適」な空の旅が多くの人達の仕事と努力に支えられているのだということを心に刻むことが出来たのではないのでしょうか。

最後になりましたが、先にご紹介した講師の方々、事前打ち合わせ、準備、司会をしていただきましたノーブルス様、当日のボランティアとして参加いただいた杉本様、古川様、皆様にご心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



(ヒューストン日本語補習校 小学部5年生担任一同)